学びの風便り

リーディングスクール通信04　R5.6.30
発行：松本市教育委員会　教育研修センター

第1回 リーディングスクール・ラボ

６月 15 日（木）　第１回リーディングスクール・ラボがＭウイングを会場に開催されました。
当日は、リーディングスクール、パイオニアスクールをはじめ、アソシエイト校・一般の学校から、さらに教育行政関係から、合計 50 人以上が参加され、３つの分散会に分かれて各実践校の発表を聴き、質疑・協議を行いました。

「確かな一歩を踏み出したことを報告します！」　～熱のこもった実践報告・協議～

リーディングスクール・ラボは、１３の実践校が、学校づくりのスタートからこれまでの歩みを、プレゼンテーションを用いながら報告し、それに対して質疑・協議を行う、という形で進められました。

各学校からの発表では、これまでの２か月の中で、確かに動き始めた学校の様子が活き活きと伝えられました。

Ｋ小学校からは「総合・生活の授業展開で悩みのある先生が、同僚の先生と相談・協議するミーティング（『チューニング』）を行ったところ、とても好評だった。ベテランの先生からも、『ぜひ、自分の学級についても実施してほしい。』という声があった。」という報告がされ「これは、本当にお勧めです。ぜひやってみてください」という力強い呼びかけがありました。また、Ｋ中学校の発表者の先生は「前からおられる先生から『今年は、職員室で子どもの学びの様子について話すことが多くなった』と伝えられたことに手ごたえを感じている」と述べ「私たちの学校で歩みが確実に１歩踏み出されたことを報告したい」と発表を締めくくりました。どの会場からも、発表される先生方から、歩み始めた学校の「誇り」と「熱」が伝わりました。

また、各会場では、参加者の皆さんが真剣なまなざしで発表を受け止め、熱心な質疑・協議をいただきました。「**松本で『子どもを主体とした学び』への動きが確かに生まれた」ことを深く実感し共有**する機会となりました。

〈参加者のみなさんの感想から〉

始まったばかりのこの時期であることに意味があったと思う。この時期に各々の学校の取組を知ったり学んだりすることで、今後の各学校の実践に必ず生きると思う。

どの学校も、不安ながら一歩を踏み出し「先生方の意識改革」に乗り出しているところが印象に残った。同じように自校でもともに歩んでいきたいという思いが膨らんだ。「子どもを信じて、任せる」「子どもの力を信じて待つ」ことができる、「子どもの学びを見守れる教師」でありたいと思う。

職員研修を定期的に実施している学校がいくつもあり、参考にしたいと思った。研修会を通して職員がまとまりをもち、研究内容の理解を深めたり、同じ方向を目指して学習指導にあたったりできると思った。

職員同士の語り合いのよさ、大切さを再認識しました。「子どもを語ること」「思いを語ること」を大切にしていきたいと思います。

探究的な学びを目指して、各校が試行錯誤している様子がわかり、松本市全体で子どもたちの学びを改革していこうという意気込みが感じられ有意義な時間だった。感謝。次回も参加したい。

Ｔ中学校での対話的な学び、聞き合う・考え合うための４人グループでの問題追究の実践発表では、各教科の先生方が手ごたえを感じている様子が伝わってきた。本校でも協働的・探究的な生徒主体の学びを強化で取り組もうとしている。まずは、いつでも前を向けている机を向かい合わせるところから「やってみよう」と思った。

特集:学びの改革のあゆみ　　丸ノ内中学校(学びの改革パイオニア校)

職員研修で「探究の学び」をみんなが体験！　教師も学び手に！

　丸ノ内中学校では、総合的な学習の時間「忠恕の時間」で、学級を超えた小グループによるプロジェクト型の探究学習を全学年が実施しています。全校的な取組を進めるにあたり、先生方が子どもの学びを実際に研修の中で経験し実感することで、子どもの学びの様子をとらえたり、適切な助言をしたりすることができるようになることを目指しています。

　丸ノ内中学校では、「学びの戦略会議」を組織し、一連の研修を企画・実践しています。このチームメンバーの矢代先生（副教務主任）、上條先生（探究コーディネーター）からお話を伺いました。

「学びの戦略会議」の皆さん（一部）

Q　職員研修を実施するようになったいきさつは？

●探究の学びを全校展開するに当たって先生たちにアンケートを実施したところ、先生たちが探究的な学びの支援のあり方について不安を多く感じていることがわかりました。そこで、先生たちみんなで探究の学びそのものを体験することで、「探究の学び」のイメージや支援のあり方を共有しよう、と考えました。

■今年度、探究コーディネーターとして、軽井沢風越学園を毎月訪問し、風越学園の研修や会議から学んだこと、感じたことを取り入れ、本校の職員研修に役立てています。

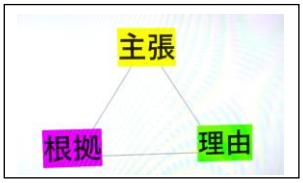
Q　具体的にはどのような研修ですか。

●例えば「模擬探究をやってみよう」という研修を実施しています。ここでは、生徒たちと同じアンケートを通して、先生たちが探究したい課題を見出し、同じテーマで探究をともに進める小グループを作り協力しながら実際の探究に取組みます。

●その際、生徒が使う「ラーニング・ジャーナル」というICTツールも、実際に使います。「ラーニング・ジャーナル」は一種の協働編集ツールで、探究のプロセスで得られた情報や、考え、まとめ等をすべてここに記録し、グループのメンバーに共有します。最終的に探究の足跡が１ページ目にまとめられ、これを拡大印刷してポスターセッション等、発表に利用します。先生たちは、実際にこのツールを使ってみながら効果的な構成の仕方や写真の修整の仕方等、具体的な使い方や支援の仕方を学び合います。

ラーニング・ジャーナル（生徒作成）

●また、教師として「探究の学び」において生徒に身につけたい「論理思考の型」についても、理解を深めます。これは三角ロジックといい、「根拠となる事実やデータをもとに、それを解釈して理由付けをし、意見・主張を述べる」という論理的な説明の方法ですが、生徒たちが自分たちの探究の結果を説明する際に、「根拠をもとに意見をのべる」上で大切にしたいと考えています。直接、生徒たちにこの型を教えるものではありませんが、支援者としての教員が「根拠を基に主張する」方法について理解を深めておくことが大切と考え、研修を通して共有しています。



三角ロジック

Q　先生たちの学びの様子はいかがですか？

●先生方のアンケートから出発した研修であることもあり、先生方はとても前向きに取り組んでいただいています。先日は生徒がデータ集計に使う「箱ひげ図」の研修を、数学科の先生にやっていただきましたが、大変盛り上がりました。職員室でも日常的に「総合」についての会話が行われるようになってきています。それぞれの先生の持ち味を生かして取り組むことで、先生方の関心が高まってきているのを感じています。

■「探究」に苦手意識をもっていた先生が、とても前向きになっている姿もあります。「総合的な学習の時間では、生徒が普段の授業では見られない姿をみせてくれる」と子どもたちの姿に引き込まれる楽しさを伝えてくれます。

Q　子どもたちの学びの姿も変わってきているのですね。

■「忠恕の時間」には、子どもたちは本当によく対話をします。また、学んだことを私たちに話してくれます。その表現力、意欲に感心します。昨年、探究に取組んだ３年生の保護者の方からも、「本当にいい学習を体験させてくれた」と喜びの声が届きました。担任としてうれしい限りです。

★取材を通して、丸ノ内中の先生方・生徒の皆さんが醸す「勢い」を感じました。ありがとうございました。